

BB11 011

授業科目	社会学基礎論 (Introduction to Sociology)		
担当教員	葛山 泰央	研究室	人社A413研究室
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜 5時限
学期曜時限	1・2学期 月曜 6時限	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 近代社会の自己観察をテーマに、社会の内部観察(=社会への／からの視線)としての社会学的思考の成立と展開を、いくつかのテキストに即して紹介する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業目標】この授業では、社会の内部観察としての社会学的思考の成立と展開を、いくつかのテキスト(マルクス、デュルケム、ヴェーバー、ジンメルなど)に即して紹介することを目的とする。 社会学はこれまで、「近代社会の自己観察」として成立し展開してきた。それは「社会秩序とは何か」という根本問題のもとで、社会の「階層的分化」から「機能的分化」への移行に見合う、数多くの命題を打ち立ててきた。しかし社会学は現在、その方法と対象を、次第に拡散させてゆく方向にある。現代の社会学が拡散してゆく事態は、現代社会そのものが拡散してゆく事態の、一つの効果に他ならない。近代の社会学は「社会の自己観察ないしは内部観察」として繰り返されてきたのだが、現代の社会学は「社会そのものの拡散」や「内部観察そのものの動揺」(ルーマン)に向き合わなければならないのである。 この授業では、社会学的思考の成立と展開を辿り直してゆくなかで、社会の内部観察そのものの困難や不可能性を浮かび上がらせつつ、それらの困難や不可能性が近代・現代の社会学を「解体」させたのちに、近代・現代社会を観察するためのいかなる思考が残存しているのかを、探究することにした。 前半では、「社会的事象の探究」「19世紀と20世紀の社会学」「行為理論」「物象化論と存立構造論」という視角から、社会学的思考の成立と展開を主題化する。後半では、「構造主義」「知の考古学」「社会システム理論」「習俗の思考」「イメージの思考」という視角から、「来たるべき」社会学的思考の転回の可能性について考察する。 【授業内容】講義ならびに関連するテキストの分析を中心に進めたい。 【文献】見田宗介・栗原彬・田中義久(編)『【縮刷版】社会学事典』(弘文堂 1994年1月)ほか			
単位取得要件	各学期末のレポートを踏まえた総合評価(詳細は別途指示します)		
備考	社会・国際学群以外の学生については、受講を制限する場合がある。		

BB11 021

授業科目	現代社会論 (Modern Society)		
担当教員	五十嵐 泰正	研究室	人社棟A408
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜5・6時限
学期曜時限	2学期 火曜3・4時限	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 グローバル化という現象が、いかに私たちの現実の生活と認識を変えつつあるのか、おもに国内外の都市で起こっている具体的な事例を参照しながら、社会学的に考える。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 グローバル化とは、さまざまな立場からの議論を呼び起こしながら、現代に生きる誰しもを否応なく巻き込んでゆく多面的なプロセスである。イントロダクションにあたる講座の序盤では、消費と生産、労働、文化、階層構造、ナショナリズムといった代表的な社会学的トピックを取りあげ、グローバル化時代におけるそれらの変容と再編の過程を概観してゆく。 講座の中盤から後半にかけては、人と資本のグローバルな移動が集中する都市に焦点を当て、空間論の基本的な議論をおさえた上で、都市間競争や都市空間の商品化などの問題を議論する。具体例としては、講師が実証的に調査してきた上野を中心とした「下町」地区をはじめ、東京や国内の地方都市の事例を数多く取り上げることになるが、ロンドンやシンガポール、北米の諸都市の事例も適宜参照する。 特に教材は指定しないが、授業では映像や雑誌・新聞記事などを積極的に使用する。普段の生活から広くアンテナを張って、グローバル化という大きな事象を自分自身の問題として捉えなおすセンスを養ってほしい。			
単位取得要件	学期末の試験および授業内の小課題により評価する		
備考	▼社会・国際学群コア・カリキュラム 社会教育主事 比文(AC33 141)国際(BC11 801)と共通		

BB11 031

授業科目	社会の表象 - 社会学データ入門 - (Studies on Sociological Data)		
担当教員	全 教 員	研究室	人社A413研究室(科目責任者・葛山泰央)
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜 5時限
学期曜時限	3学期 水曜 4・5時限	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 社会学が用いるさまざまなデータ、すなわち統計、新聞、雑誌、手記、インタビュー、テキスト、映像などを紹介する。それらは社会の実態を表すものであるとともに、データの選択と調達の仕方にも社会が反映されていることを解説する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業の進行予定（昨年度の事例）】 第1回 イントロダクション 第2回 移民とエスニシティの社会学 第3回 医療社会学 第4回 知識社会学 第5回 家族社会学 第6回 労働社会学 第7回 犯罪社会学 第8回 差別の社会学 第9回 歴史社会学 第10回 予備日(3学期期末試験期間) 以上は昨年度の事例であるが、今年度の授業でも、それぞれの分野に関連する社会学的データ(社会の表象)が紹介され、それらの適切な処理の仕方を通じて、社会を記述・分析するための具体的な手順が指し示されるはずである。受講者各自には、授業外においても、各種の文献や史資料にアクセスしてみることで、授業で紹介されたものに関係する社会学的データとその諸相を検討してゆくことが期待される。授業の教材となる社会学的データを含めて、それぞれの分野に関連する文献や史資料については、授業内で具体的に指示する。			
単位取得要件	学期末レポートによる(詳細については後日掲示)		
備考	社会・国際学群以外の学生については履修を制限する場合がある。		

BB11 591

授業科目	現代社会学の系譜 (A Genealogy of Modern Sociology)		
担当教員	葛 山 泰 央	研究室	人社A413研究室
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜 5時限
学期曜時限	3学期 月曜5・6時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 〈民主主義(デモクラシー)〉の系譜をテーマに、近代における〈民主主義〉文化の展開について、いくつかのテキストの分析を通して検討するなかで、政治的・社会的想像力の現在を探究する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業の進行予定】イントロダクション／〈啓蒙とは何か〉／〈アメリカを観察する〉／トクヴィル『アメリカのデモクラシー』第一巻／トクヴィル「1789年前後におけるフランスの社会的・政治的状態」／トクヴィル『アメリカのデモクラシー』第二巻／トクヴィル「回想録」／トクヴィル『旧体制と大革命』／〈啓蒙の運命〉(ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、ホルクハイマー＝アドルノ『啓蒙の弁証法』、フーコー『古典主義時代における狂気の歴史』)／〈歴史と読解〉ほか 【授業外の予習復習方法】本講義はトクヴィル(Alexis de Tocqueville 1805-1859)のテキストを分析することを中心に進めるが、受講者各自には、授業外に既存の翻訳書や研究書を参照することのほか、テキストの分析を通して浮かび上がってくる〈民主主義〉思想の現代的展開について考察することも要求される。 【教材等】教材はトクヴィル『アメリカのデモクラシー』(岩波文庫 全四巻)ほかを使用する(適宜資料も配布する)が、関連する文献やテキストについては講義の際に適宜指示する。			
単位取得要件	学期末のレポートによる評価(詳細については別途掲示します)		
備考			

BB11 141

授業科目	ジェンダー社会論 (Gender Study)		
担当教員	樽川典子	研究室	人文社会科学系棟A407
単位数	2単位	オフィスアワー	火曜日 14:30-16:30
学期曜時限	1学期 木曜4・5時限	授業対象学生	2~4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 ジェンダーの視点にたつて現代社会の構造を理解する基礎理論を学び、それらを応用して政治、労働、家族における制度、規範、慣行について考える。今年度は「個人の生き方」「マクロレベルにおけるジェンダー」にわけて考察する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 はじめに <個人の生き方とジェンダー> 1. 女性の生き方と男性の生き方—マンガの文体 2. 大人になれない男性たち 3. ミドルエイジ・クライシス 4. 育児休業をとる男性たち 5. 能町みねこの生き方—身体とセクシュアリティ <マクロレベルにおけるジェンダー> 6. 母性の保護—国家とジェンダー 7. 対人サービスという商品—企業におけるジェンダー 8. 格差社会とジェンダー おわりに **** 予習復習などでは以下を参照のこと **** 第1回授業で初学者向けの参考文献を紹介する より専門的な文献は、各回の授業で定時する			
単位取得要件	レポートによる		
備考	社会教育主事 国際、看護と共通		

BB11 571

授業科目	都市社会学 (Urban Sociology)		
担当教員	五十嵐泰正	研究室	人社棟A408
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜5・6時限
学期曜時限	1学期 金曜2・3時限	授業対象学生	2~4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代の地域における様々な局面での人々の「つながり」の衰退と再建について、幅広い都市的な問題領域にわたって検討する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 現代社会ではさまざまな局面で、人間関係の希薄化、コミュニティの崩壊が懸念されているが、それは、旧来型の地縁やしがらみを嫌い、便利で安心な消費生活を営みたいという市民の根強い欲求の結果でもある。その一方で近年、若者たちの中に移動志向の減退と表裏一体のジモト志向の高まりが指摘されるようになってきた。こうした状況の中で、地域の中での人の「つながり」の再建をどう捉えていけばいいのだろうか。あるいはそもそも、再建していく必要があるのだとすれば、それはなぜなのか。社会関係資本の考え方をひとつの軸線に、貧困とマイノリティ、商店街とショッピングモール、ゲーテッドコミュニティ、そして地方政治など、現代の都市に生活する人々が直面する幅広い問題領域を、日本や欧米の事例を参照しながら多角的に検討していきたい。 教材は特に指定しないが、下に挙げるもの、授業内で指示するものなどを、適宜批判的に参照することが望まれる。講義は、毎回配るレジュメと資料に沿って行われる。 R.パットナム『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房、2006年 三浦展『ファスト風土化する日本』洋泉社、2004年 東浩紀、北田暁大『東京から考える』NHK出版、2006年			
単位取得要件	学期末の5000字程度のレポートにより評価する。		
備考			

BB11 201

授業科目	病いと死の社会学 (Sociology of Illness and Death)		
担当教員	奥山敏雄	研究室	人社A410
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜4時限
学期曜時限	1学期 火曜4・5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 重い病いととも生きるという経験や死を間近に生きるという経験について、自己・他者・社会関係という視点から社会的に考察することを目標とする。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 (1) 20世紀後半、「死にゆく過程」が経験科学的に構築され、死にゆく過程の管理が本格化してきたが、死にゆく過程はどのように構築され、重い病いになり死にゆく人たちの経験や意味がどのように管理の対象とされてきたのかを考えることが第一の課題となる。 (2) 病いととも生きねばならない人の経験が語りを通して形成される局面について、身体、自己、語りという点から考えることが第二の課題となる。 (3) そして第三の課題は、死にゆく過程における生の意味の喪失と回復の可能性について考えることにある。死が切迫したいかなる生にも意味が見出されるとすれば、それはどのようなものなのか考えたい。 教科書は使用しない。必要な文献情報は適宜提供する。 特に重要な文献として紹介するものについては、各自読むことが必要となる。			
単位取得要件	期末試験のみで評価する		
備考			

BB11 271

授業科目	犯罪社会学 I (Sociological Criminology I)		
担当教員	土井隆義	研究室	人文社会学系棟A411
単位数	2単位	オフィスアワー	特に定めない。
学期曜時限	2学期 火曜3・4時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 犯罪という社会現象を素材にした社会学のものの見方や考え方を解説する。したがって、「犯罪をなくす」という当為の問題としてではなく、「犯罪をとめて社会を知る」という存在の問題として犯罪現象を扱うことになる。講義では、犯罪社会学の基本的な考え方を説明するとともに、我が国の少年犯罪を題材に、統制活動の産物として犯罪をとらえる視点の可能性を追求していく。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 I. 犯罪社会学というものの見方・考え方 1. 犯罪と刑罰: 社会学的な理解の仕方を巡って 2. 殺人という犯罪: デュルケームからシカゴ学派へ 3. 近代刑法の起源: マルクスからキルヒハイマーへ 4. 刑罰の合理化過程: ウェーバーからフーコーへ 5. 刑罰の象徴的意味と現実的機能: 現代の犯罪社会学 II. 我が国の少年犯罪をめぐる社会学的考察 1. 「少年犯罪の凶悪化」言説の妥当性を巡って 2. 非行キャリアの崩壊と少年犯罪の稚拙化 3. 衝動化する後期近代の社会的性格 4. 自己確認犯罪の流行とその挫折 5. 個性志向から関係志向へ: なぜ少年犯罪は減ったのか? ※教材は授業のなかで指示する。			
単位取得要件	論述形式の期末テストによって評価する。		
備考			

BB11 301

授業科目	スポーツ文化論 (Sociology of Sports Culture)		
担当教員	黄 順 姫	研究室	人社A415
単位数	2単位	オフィスアワー	水曜日
学期曜時限	2学期 金曜4・5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
<p>スポーツ現象を理解、考察するための道具概念、枠組み、理論を学ぶ。そして、実際に、グローバル化・格差化する現代社会においてスポーツを巡る文化現象を、アスリート、スポーツ観戦者、スポーツ産業、メディアの観点から社会的に分析する。</p>			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
<p>授業の進行は、9月の最初の授業において進行予定表を提示する。また、興味本位や、簡単に単位をとる目的でなく、しっかり学びたいという修学意識が高い学生達が受講の対象者となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ現象を理解するための、概念、理論枠を学ぶことが大切であるため、授業以外でも勉強をし、レポートの作成、提出する。 2. 授業においてスポーツに関する映画の鑑賞を通して考察し、スポーツ映画の社会学を学ぶ。 3. スポーツ関連の新聞・雑誌の雑誌記事、映像を分析する。 4. WBC,W杯サッカー大会、オリンピックなどのメガスポーツイベントを巡るスポーツ観戦学に関する研究論文や書物を輪読し、各自が取り組みたいテーマ別のグループに参加して勉強し、レポートを作成した後に、グループ発表を行う。 5. 体育教育で生成する身体、スポーツジムやクラブで商品化する「身体」消費などに関する日本・韓国の学校体育、及び地域スポーツ行政、スポーツシステムの比較社会的視座と分析力を涵養する。 6. レポートも多く、たくさん勉強をしなければならないために、非常にハードルの高い授業であるが、知識を学び、社会的分析力が身体化する楽しさと喜びを感じ取る授業である。 			
単位取得要件	レポート作成、研究発表、出席チェックが、単位取得の必修条件。		
備考	国際と共通。教科書、参考文献は、最初の授業の時間に提示する。		

BB11 601

授業科目	社会階層論 (Studies in Social Stratification)		
担当教員	森 直 人	研究室	人社A409
単位数	2単位	オフィスアワー	メールにて随時相談
学期曜時限	2・3学期 金曜4時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
<p>社会階層・社会移動研究と生活構造-変動論の観点から、近代～現代にかけて産業社会・日本の階層構造／階層文化の生成と変容の過程を歴史的に考察し、その特質と今後の展望を論じる。履修人数にもよるが、最大限受講者による報告と議論の機会を盛り込むつもりなので、単なる講義形式よりも積極的な参加が要請される。</p>			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
<p>社会階層と社会移動／社会意識／階層文化との関係性に焦点化する観点から産業社会・日本の成立と展開・変容を捉える。主に参照する研究群は、教育の歴史社会学、生活構造論、SSM調査研究といった領域になる。</p> <p>授業の進行予定の概要は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)近代学校教育の確立と社会階層・社会移動 (2)戦前期・都市下層における生活構造の形成と緊張 (3)社会移動の観点からみた戦後日本の階層構造-変動 (4)社会意識の観点からみた戦後日本の生活構造-変動 (5)「下層社会」／「総中流社会」／「格差社会」 <p>テキストは指定しないが、参照すべき文献は多数にのぼる。詳細は授業中に指示するが、主なものだけ挙げると、菊池城司『近代日本の教育機会と社会階層』(東京大学出版会、2003年)／竹内洋『増補版 立身出世主義』(世界思想社、2005年)、中川清『日本都市の生活変動』(勁草書房、2000年)／中川清『日本の都市下層』(勁草書房、1985年)、原純輔・盛山和夫『社会階層』(東京大学出版会、1999年)および1955年以後10年おきに実施されているSSM調査をもとにした書籍群。</p>			
単位取得要件	授業への参加度・貢献度(発言・報告など)と各学期末に課すレポート(各4000字以上)により評価。		
備考			

BB11 351

授業科目	エスノメソドロジー (Ethnomethodology)		
担当教員	好井 裕 明	研究室	人社A414
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	1・2学期 火曜2時限	授業対象学生	2～4年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】 現代社会学の主要なアプローチであるエスノメソドロジーについて概説する。単にミクロな相互行為を分析する方法論としてではなく、現代社会や常識的知識、行為、制度的現実などをどのように革新的に見ていくのかという新たな「ものの見方」として説明したい。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 1. エスノメソドロジーとは何か 2. エスノメソドロジーをめぐる基本的考え方 3. 初期エスノメソドロジーについて 4. シカゴエスノグラフィとエスノメソドロジー 5. 会話分析の基本的考え方 6. 制度的状況の会話分析 7. 社会問題のエスノメソドロジーの可能性 8. 日常生活批判実践としてのエスノメソドロジー</p> <p>という流れで、概説する予定。 各時間におけるトピックに関連する参考文献は適宜その場で紹介していく。</p> <p>テキスト：串田秀也・好井裕明編『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』（世界思想社） 好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学』（光文社新書）</p>			
単位取得要件	各学期末にレポートを課する予定。それを提出することが単位取得の最低限の要件。		
備考	社会問題や自らの日常をよりおもしろく「社会的」に考えたいと思う学生に受講してほしい。		

BB11 521

授業科目	メディアと情報化の社会学 (Sociology of Media and Information)		
担当教員	野 上 元	研究室	人社A412
単位数	2単位	オフィスアワー	メールで事前にアポを取る
学期曜時限	3学期 火曜4・5時限	授業対象学生	2～4年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】 われわれの社会認識や社会記述の「方法」とマス・メディアの「形式」との関連を、近代以降、現在にまで至る歴史のなかで追尾する。とりわけ、両者の関係が破滅的なかたちで現れる数々の「戦争」を焦点としながらそれを解説してゆくことにしたい。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 授業は以下の順序で進行する予定 0. イントロダクション～戦争と社会(学) 1. 社会記述の方法としてのメディア 2. 市民社会の記述と「国民」の戦争 3. 大衆社会の記述と総力戦 4. 消費社会の記述と冷戦 5. 情報社会の記述と戦争の現在</p> <p>意欲ある学生は、3学期までに以下の文献で「予習」しておいてもよいかもしれない。その他の参考文献については授業中にリストを配布する。 (1) 遠藤知巳「マス・メディアが社会を決めているのか？」大澤真幸編『社会学の知33』新書館、2000年 (2) 細見和之『「戦後」の思想－カントからハーバーマスへ』白水社、2009年 (3) 佐藤卓己『現代メディア史』岩波書店、1998年 (4) レイモン・アロン『戦争を考える－クラウゼヴィッツと現代の戦略』政治広報センター、1978年[絶版]</p>			
単位取得要件	3回のレポートを全てを提出していることが最低限の条件。課題は授業中に発表する。		
備考			

BB11 481

授業科目	コミュニケーション論A (Communication Theory A)		
担当教員	海後宗男	研究室	人社棟 B816
単位数	1単位	オフィスアワー	オフィスアワーは事前アポにより。
学期曜時限	1学期 月曜5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代の文化におけるコミュニケーションとメディアの関わりについて検討し、メディアの提供する情報が人間や社会に与える影響も考えてきます。コミュニケーション論の過去の研究の紹介をしていきます。要望:授業中の入退室は禁止する。マナーを守れない学生は受講しないこと。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 情報はいたるところに存在します。私たちは情報の波にもまれながら、一方で様々なメディアを使い分け、また一方では、常にメディアの与える情報に影響されながら、生活しています。この高度情報化社会と呼ばれる状況は、私たちの生活にとって実際にはどのような意味を持つのでしょうか。多種多様なコンテキストで使用されている「コミュニケーション」という言葉は、何を指しているのでしょうか。現代社会におけるメディア・情報通信技術とコミュニケーションのあり方を考え、コミュニケーション論に関わる研究分野の諸理論と、研究方法について学習することを目的とする。参考文献は開講時に指示。			
単位取得要件	各種課題の提出状況・出席・最終レポートによる評価。学習態度とマナーを重視。		
備考	比文(AC33 021)と共通 コミュニケーション論A・B共に受講すること		

BB11 491

授業科目	コミュニケーション論B (Communication Theory B)		
担当教員	海後宗男	研究室	人社棟 B816
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	2・3学期 月曜5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代の文化におけるコミュニケーションとメディアの関わりについて検討し、メディアの提供する情報が人間や社会に与える影響も考えてきます。ニュース、メディア暴力、情報通信技術をトピックとして扱っていきます。要望:授業中の入退室は禁止する。マナーを守れない学生は受講しないこと。卒業年度の学生(4年生以上)は履修する前に必ず相談すること			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 メディア・コミュニケーション論。 情報はいたるところに存在します。私たちは情報の波にもまれながら、一方で様々なメディアを使い分け、また一方では、常にメディアの与える情報に影響されながら、生活しています。この高度情報化社会と呼ばれる状況は、私たちの生活にとって実際にはどのような意味を持つのでしょうか。多種多様なコンテキストで使用されている「コミュニケーション」という言葉は、何を指しているのでしょうか。現代社会におけるメディア・情報通信技術とコミュニケーションのあり方を考え、コミュニケーション論に関わる研究分野の諸理論と、研究方法について学習することを目的とする。参考文献は開講時に指示。			
単位取得要件	各種課題の提出状況・出席・最終レポートによる評価。学習態度とマナーを重視。		
備考	比文(AC33 031)と共通 コミュニケーション論A・B共に受講すること。		

BB11 471

授業科目	スポーツ社会学 (Sociology of Sports)		
担当教員	松村和則 <火曜3時限> 清水諭	研究室	体育科学系B棟 B609
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	火曜3時限(松村)水曜3時限(清水)	授業対象学生	1年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
「大衆消費社会」としての現代社会の中で、スポーツはどんな存在としてあるのか？メディアに創り上げられたスポーツの現在の姿が、農山村では環境問題まで引き起こす巨大な「力」を得てしまった背景を考える。その後で、スポーツを実践する学生として「賢く」生きるにはどうしたらよいかをディスカッションする。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
講義の概要			
授業内容		キーワード	
1 大衆消費社会の現在		ファッション、スポーツ、記号、身体	
2 「過剰」な財とサービスを 生み出すスポーツ		過剰、財、サービス、スポーツ	
3 「欲望」とスポーツへの視角		欲望、身体ゲーム	
4 マラソンの現象学		メディア・マラソン・社会的瘦身	
5 スキーの社会学		モノ・カルチャー、スキー、滑る身体	
6 ゴルフの社会学		ゴルフ、道具、会社社会、身体の拡張	
7 スポーツから見える「階級論」		階層、階級、ハビトゥス、ブルデュー、 文化資本	
8 スポーツが産み出す環境「問題」		山村の崩壊、レジャー開発、環境保全	
9 スポーツ実践と地域・環境		NPO、ムラ、行政	
10 メディアイベントの象徴力と地域生活		長野五輪、W杯、鹿島開発	
参考文献	松村和則編著『【増訂版】メガ・スポーツイベントの社会学』南窓社 2007年 井上俊・亀山佳明編『スポーツ文化を学ぶ人のために』世界思想社 1999年 松村和則 編著『山村の開発と環境保全－レジャー・スポーツ化する中山間地域の 課題－』南窓社 1997年 P・ブルデュー『社会学の社会学』藤原書店 1991年 多木浩二『スポーツを考える』ちくま新書 1996年		
単位取得要件			
備考	体育(W82 0501)と共通		

BB11 471

授業科目	スポーツ社会学 (Sociology of Sports)		
担当教員	松村和則 清水諭 <水曜3時限>	研究室	体育B611
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜14時～17時(清水)
学期曜時限	3学期 火曜3時限・水曜3時限	授業対象学生	1年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
近・現代及び伝統スポーツを消費社会、メディア、身体文化、自然環境、さらに地方自治や国家権力から読み解く。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
【授業目標】			
現代におけるスポーツという文化のもつ特徴を箱根駅伝、甲子園野球、オリンピックなどのメガイベントから分析・考察する。そこから、私たちが日常生活を営む社会をどのように見つめ、変革させることができるのかを考える。			
【授業内容】			
1) 箱根駅伝をどのように読み解くか？ 2) テレビとスポーツの物語：甲子園野球 3) スポーツのビジネス化とメディアとしての身体 4) 60'sアメリカと人種問題：'68メキシコとモハマド・アリ 5) '64東京オリンピックと都市構築 6) '64沖縄一'87沖縄一'11沖縄：ナショナルリティの諸問題 7) 身体・ジェンダー・映像資本主義の過去と現在 8) 美と人種差別：'36ベルリンと『民族の祭典』 9) スポーツのカルチャーとは何か？：伝播と受容 10) 日本におけるスポーツ・メディア・身体の諸問題			
【使用教科書】清水諭編(2004)『オリンピック・スタディーズ』せ			
単位取得要件			
備考	体育(W82 0501)と共通		

BB11 611

授業科目	社会学研究法 (Sociological Method)		
担当教員	土井隆義	研究室	人文社会学系棟A411
単位数	2単位	オフィスアワー	特に定めない。
学期曜時限	1・2学期 月曜2時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 社会学的なものの見方や考え方について、社会学の文献を読みながら修得していくことを目指す。とくに具体的な素材として、現代社会における若者の消費行動に関する資料を集め、それらを比較検討することで、社会学的に考察を加えていく方法を学ぶ。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 I. 授業内容: 学期ごとに次の要領で授業を行なう。 第1学期……演習に参加する学生全員で共通の文献を輪読していく。報告を担当する箇所をあらかじめ配分しておく。毎回、担当者が報告を行なった後、その内容について全員でディスカッションを行なう。 第2学期……社会学の方法論を考える上で、学生各自が関心のあるテーマについて基本的な文献の一つを取り上げて、その文献の概要と自分の意見を報告する。その後、報告された内容と意見について全員でディスカッションを行なう。 II. 使用テキスト: 第1学期に使用する共通文献は、以下のとおりである。 大澤真幸『不可能性の時代』岩波新書 見田宗介『現代社会の理論』岩波新書			
単位取得要件	平常点とレポートを総合的に評価する。		
備考	今年度は「社会学演習Ⅶ」とセットで履修することを条件とする。		

BB11 813

授業科目	社会調査実習Ⅰ (Sociological Survey I)		
担当教員	樽川典子	研究室	人文社会科学系棟A407
単位数	6単位	オフィスアワー	火曜日 14:30-16:30
学期曜時限	1～3学期 木曜6時限 集中	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 セピア色の写真を発見し、それらを保存、記録する行為は、故郷や家族の歴史を視覚的につづる作業といえる。そうした共同体の＜歴史の物語＞はどのように再構成されるのか、実証的に考察する。 フィールド調査は複数回にわたっておこなう予定であり、それらへの積極的な参加が期待される。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 フィールド調査は、筑波山麓において街づくり活動をおこなっている地区を対象とする予定である。調査にさきだつて、以下のような予備作業をおこなう。 ①写真の個人・社会的イベントに関する文献、写真と記憶に関する文献の購読 ②対象地区の街づくり活動と歴史についてのヒアリング ③対象地区における写真の発見、保存、記録の経緯についてのヒアリング これらの情報にもとづき、いくつかの調査トピックスを確定してインタビュー調査をおこなう。あわせて可能であれば、写真をデジタル化して保存することを検討したい。 さいごに調査報告書を執筆し刊行する。			
単位取得要件	フィールド調査への参加と報告書の執筆		
備考	フィールド調査は休日等に行う場合がある。		

BB11 812

授業科目	社会学演習Ⅰ (Seminar on Sociology Ⅰ)		
担当教員	野上元	研究室	人社A412
単位数	3単位	オフィスアワー	事前にメールでアポを取ること
学期曜時限	1～3学期 火曜6時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代社会の起源としての①「1930年代」、②「占領期」、③「1960/70年代」のどれか、あるいはそれぞれを、社会史や思想史、文化史やメディア史を交錯させるような見地から立体的に考察してゆきたい。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 参加者の共同作業で、ひとつの歴史社会学的研究の事例研究を行う。今年度は②「占領期」の日本社会について検討するが、そのなかでも特にいわゆる「東京裁判」(極東国際軍事裁判)を、社会史・メディア史・文化史・思想史など様々な角度から検討する。同時代の資料を漁るほか、現在に至るまでの「東京裁判」論議・論争や様々な「東京裁判」表象(映画や小説、マンガなど)に広くあたり、理解を深めることを目指す。「あれは正しい裁判ではなかった／であった」で終わってしまうような話として検討するのではなく、それが戦後日本社会や現代社会の何をどのようなかたちで規定しているか?という、ひとつの歴史意識の社会学的な検討を行う。 以下のように進行する予定。 1学期: 「占領期」「東京裁判」に関する基礎的な文献を読み、記録フィルムや代表的な映画などを見る予定 2、3学期: いくつかのサブテーマを設定し、分担して検討する 受講を検討しているものは、東京裁判の<社会学的な>論点について、以下の論文を参考にするとよい。 野上元「東京裁判論—上演される歴史、形象としてのA級戦犯」『戦争の政治学』(講座アジア・太平洋戦争 第2巻)岩波書店、2005年			
単位取得要件	分担した課題をきちんとこなすこと。毎回きちんと出席して議論に参加すること。		
備考			

BB11 822

授業科目	社会学演習Ⅱ (Seminar on Sociology Ⅱ)		
担当教員	奥山敏雄	研究室	人社A410
単位数	3単位	オフィスアワー	木曜4時限
学期曜時限	1～3学期 木曜3時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 死を生と分断されたものと捉え、死についても死にゆく自己の物語として語るという現代社会における死の捉え方の特異性について、死と生とを連続する全体として捉える視座と比較して考察することを目標とする。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 1学期から2学期前半にかけて、共通のテキストを輪読する。 病いと自己物語に関する議論、自己実現から自己超越への視座の転換に関する議論、この宇宙のなかに生まれそして死んでいくその全体性についての議論、これらに関するいくつかのテキストを選んで輪読する。 夏休みにレポートを作成し、2学期後半からは各自がレポートについて報告し討論を行う。それをもとに完成度を上げることを目標に3学期にゼミ論を仕上げる。 ゼミ論を書くことを目標とするので、死という大きなテーマについて自分なりの問題関心をどのように社会学の見方や言葉で表現できるかが重要です。社会学の様々な基本的考え方を十分に身につけたうえで、このテーマに関して自前の議論を組み立てるというやり方もあるでしょうし、このテーマに関する社会学の先行業績を詳細に学んだうえで、従来の議論を一步でも前進させるというやり方もあるでしょうが、いずれにしても文献や資料をたくさん読みこなすことが必要です。			
単位取得要件	授業における報告や質疑への参加、およびゼミ論で評価する。		
備考			

BB11 832

授業科目	社会学演習Ⅲ (Seminar on Sociology Ⅲ)		
担当教員	葛山 泰 央	研究室	人社A413研究室
単位数	3単位	オフィスアワー	木曜 5時限
学期曜時限	1～3学期 月曜4時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 〈構造主義以後〉の社会学的課題をテーマに、文献や関連するテキストの読解と検討を通して、言説分析や権力分析の可能性について探究する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業目標】この授業では、言葉と物の織り成す「秩序」としての〈文書館(アルシーヴ)〉が提起する様々な問題を、文献や事例から多角的に検討することを目的とする。 文書館とは何か。図書館が一般の書籍類をも含む、各種の出版刊行物を所蔵する施設を指すならば、文書館とは、行政文書や事務文書の収集・保存・公開を目的とする施設を指している。前者が知の輝かしい集蔵庫であるならば、後者は知の痕跡や残骸からなる薄暗い集蔵庫であると言えるだろう。 とはいえ、その薄暗さが解き放つ独特の魅力もまた存在する。ミシェル・フーコー(Michel Foucault 1926-1984)は、知の言説実践を批判的に解読する装置としての〈集蔵体＝文書館〉の機能に着目し、それを〈考古学的＝文書学的〉歴史記述の可能性の条件に据えた。狂気の歴史や臨床医学の歴史や人間諸科学の歴史、さらには監獄の歴史やセクシュアリテの歴史を巡るその一連の仕事は、私たちの〈文書館〉を記述すること、私たちの知の余白をなす、あの灰色の領域を探索することから生み出された。この意味での〈文書館〉を、歴史社会学の方法概念として捉え返し、「汚辱に塗れた人々の生」のような未完の仕事に秘められた潜在力を引き出す一方で、学問の歴史や図書館の歴史、百科事典の歴史や各種の辞典類の歴史といった仕事を構想することもできるだろう。それはまた、書誌学や図書館学、書物の社会史や読書の社会史などの成果を踏まえつつ、知と身体と言語の交錯する〈文書空間〉の歴史社会学とも呼ぶべき問題領域を切り拓く作業にも繋がるはずである。 【授業内容】文献の講読や関連する事例についての報告と討論を中心に進めたい。 【文献】ミシェル・フーコー『言葉と物——人間諸科学の〈考古学(アルケオロジー)〉』(日本語訳は新潮社から)ほか			
単位取得要件	各学期の報告と討論を踏まえた総合評価(詳細は別途指示します)		
備考			

BB11 842

授業科目	社会学演習Ⅳ (Seminar on Sociology Ⅳ)		
担当教員	五十嵐 泰 正	研究室	人社棟A408
単位数	3単位	オフィスアワー	月曜5・6時限
学期曜時限	1～3学期 金曜5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 ひとつの具体的な商業集積地区の多様な魅力を探ってゆくことを通して、地域イメージ形成のあり方を理論的・実践的に考察する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 本演習で設定する調査対象地は具体的には東京都台東区上野地区のアメ横商店街であり、アメ横表通り商店街への活性化策の提言を一つの成果目標として行うものである。 2年間にわたって行われるプロジェクトの初年度にあたる本年度は、近年ますます重要性を増している「観光」という側面に焦点を当てる。元来広域型の商店集積として形成されたアメ横には国内外から観光のまなざしが注がれてきたが、他者からの視線と内部の自己定義には若干のズレが存在しているのではないかと。1学期にはまず、現代の都市において観光や地域イメージ形成が重要視される理論的・政策的な背景を確認する。その上で2学期には、アメ横に関する国内外のガイドブックや雑誌の記述、インターネット上の書き込みなどから、観光客・来街者がアメ横に期待するものを明らかにする一方で、資料の読解や聞き取りなどから、アメ横において歴史的に形成してきた多層的な地域資源や魅力を把握してゆく。3学期にはそれらを併せて、アメ横の新たな地域イメージ形成に向けたレポートを作成する。			
単位取得要件	授業への貢献度と、ゼミ論文(12000字程度)から総合的に評価する。		
備考	本演習のプロジェクトは、来年度の「社会調査実習Ⅱ」に継承する予定なので、来年度も併せて履修する意気込みのある学生を歓迎したい(もちろん必須の要件ではない)。週末や長期休みの間に、上野でのフィールドワークが行われることがある。		

BB11 852

授業科目	社会学演習Ⅴ (Seminar on Sociology Ⅴ)		
担当教員	黄 順 姫	研究室	人社A415
単位数	3単位	オフィスアワー	水曜日
学期曜時限	1～3学期 火曜2時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 小学校から大学の段階までの教育による身体規律はいかにして形成されるのか、の問題に取り組む。現代社会の学校のカリキュラムで作られる意図された身体性だけでなく、カリキュラムに従って学校生活を送る過程で、自然に見につく、「隠れたカリキュラム」の内容を具体的にとりあげ「学校の身体性」の問題を考察する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 現代社会の学校を取り巻く家族、地域、教育行政との関係性を通して、各学校段階で、身体化された文化の問題を発見し、考察・分析していく。 1学期：主に映画鑑賞 ①学校に関わる日本、韓国、欧米の映画を授業で鑑賞し、比較の視点を取り入れる。②映画の鑑賞を通して、時代的背景や社会的構造のなかから、学校の身体性の現実と映画的構成の比較を行う。 2学期：文献講読及び資料収集 ①学歴社会、学校文化、同窓会文化に関する書籍を輪読する。②各自がテーマを設定して、資料収集を行い、報告と討論をする。 3学期：自らのテーマで、ゼミ論を作成する。 参考文献：アンソニー・エリオット著、片桐雅隆・森真一訳『自己論を学ぶ人のために』世界思想社、2008年。 バーバラ・アダム著 伊藤誓他訳『時間と社会理論』法政大学出版局、1997年。 黄順姫『日本のエリート高校』世界思想社、1998年。黄順姫『同窓会の社会学』世界思想社、2007年。			
単位取得要件	学期末のレポートの提出が必修条件。		
備考	映画をみるので3時限もあけてください。		

BB11 872

授業科目	社会学演習Ⅶ (Seminar on Sociology Ⅶ)		
担当教員	土 井 隆 義	研究室	人文社会学系棟A411
単位数	3単位	オフィスアワー	特に定めない。
学期曜時限	1～3学期 月曜3時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 後期近代において登場した新たな消費行動について検討を加える。 使用テキストには必ず目を通し、ディスカッションに積極的に参加すること。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 Ⅰ. 授業内容：学期ごとに次の要領で授業を行なう。 第1学期……演習に参加する学生全員で共通の文献を輪読していく。報告を担当する箇所をあらかじめ配分しておき、毎回、担当者が報告を行なった後、その内容について全員でディスカッションを行なう。 第2学期……後期近代における消費の特徴を考える上で、学生各自が関心のあるテーマについて基本的な文献を一つ取り上げて、その文献の概要と自分の意見を報告する。その後、報告された内容と意見について全員でディスカッションを行なう。 第3学期……後期近代における消費行動をめぐる問題群の中から、学生各自が関心のあるトピックを一つ設定して、そのテーマの下で自分の考察を進めて報告にまとめる。各回とも、担当者が自らの研究成果を報告した後、その内容について全員でディスカッションを行なう。 Ⅱ. 使用テキスト：第1学期に使用する共通文献は、以下のとおりである。 山崎正和『柔らかな個人主義の誕生』中央公論社 鈴木謙介『わたしたち消費』幻冬舎新書			
単位取得要件	平常点とゼミ論文を総合的に評価する。		
備考	今年度は「社会学研究法」とセットで履修することを条件とする。		

BB11 882

授業科目	社会学演習Ⅷ (Seminar on Sociology Ⅷ)		
担当教員	好井裕明	研究室	人社A414
単位数	3単位	オフィスアワー	
学期曜時限	1～3時限 火曜3時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
<p>映画やドラマ、ドキュメンタリーなどを資料として、それらをどのように解説が可能なのかを考えたい。映画やドラマを扱うからといって、簡単にすごせるというような安易な気持ちや姿勢でこの演習に参加しようとする学生はお断りしたい。社会学的思考や社会学的調査研究にとって貴重な資料として映像をいかに扱えるかを真摯に考えたい学生が望ましい。</p>			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
<p>基本的には、受講学生が確定した段階で、相談しながら、演習の進め方を決めたい。 ただ、予定としては、1学期は、映画社会学や映像社会論に関する文献を読んでいく。 その後、2学期以降は、受講学生各自の問題関心や興味あるテーマから映画やドラマ、ドキュメンタリーを個別に選択し、学生各自の映像分析報告を順次続けていくことにする。</p> <p>最終的にゼミ論文として、12000～16000字のレポートを課す。 演習単位取得は、このゼミ論文提出が最低限の要件。</p> <p>参考文献に関しては、ゼミのおりに適宜、紹介する。</p>			
単位取得要件	上記にもあるように、ゼミ論文提出が単位取得の最低限の要件。		
備考	参加希望人数により受講者の制限を行うことがある。		

BB11 892

授業科目	社会学演習Ⅸ (Seminar on Sociology Ⅸ)		
担当教員	森直人	研究室	人社A409
単位数	3単位	オフィスアワー	メールにて随時相談
学期曜時限	1～3学期 木曜2時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】			
<p>「労働の歴史社会学」をテーマとして、日本の主に戦後改革期から高度成長期までを対象とした労働史、社会史、労働／産業社会学の文献を検討し、「戦後日本」の歴史的位置を考察する。検討対象となる文献は狭義の社会学を超えて労働史など隣接領域にまたがるので、受講者には幅広い問題関心と文献講読の努力を期待する。</p>			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】			
<p>授業の進行予定の概要は以下の通り。 【1学期】トマス・C・スミス『[増補版]日本社会史における伝統と創造』(ミネルヴァ書房, 2002年)から数章、および兵藤剣『労働の戦後史』(東京大学出版会, 1997年)を全員で輪読する。 【2学期】各自の問題意識にあわせて労働／産業社会学の個別文献を選定し、報告と議論を行なう。 【3学期】各自が特定テーマ・時期について公刊資料・二次文献にもとづいてリサーチを実施し、その報告と議論を行ない、最終的に戦後日本の労働をめぐる「歴史」の一断面を叙述するゼミ論文を執筆する。</p> <p>・3学期末にゼミ論文(12000～16000字)を執筆・提出するが、最終的な論文執筆に向けた準備段階としての課題レポートを1・2学期末にも課す予定でいる。 ・労働史を中心とした地道な史実の確定作業への志向と、社会学的な理論枠組みや歴史叙述の方法論的課題への感度との双方が要求されるので、広く自主的な文献講読が要求されるだろう。必要な文献の指示は授業中に行なう。</p> <p>授業が設定している問題関心は昨年度開講の講義科目「労働社会学」の延長上にあるが、それを履修済みか否かは受講要件として問わない。</p>			
単位取得要件	ゼミでの報告内容の水準、議論での参加度・貢献度、課題レポート及び最終ゼミ論文の内容で評価。		
備考			

BB11 982

授業科目	社会学外書講読 (Reading on Sociology (English))		
担当教員	葛山 泰央	研究室	人社A413研究室
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜 5時限
学期曜時限	2・3学期 木曜4時限	授業対象学生	2・3年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】 身体とメディアの近代をテーマに、近代社会における身体とメディアの言説的／装置的編成とその変容について、関連する文献を講読しつつ考察する。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業の進行予定】授業では下記の文献を教科書として講読を行うので、授業開始時までに各自で用意しておくこと。 Friedrich A.Kittler (1985→1990) Discourse Networks, 1800 / 1900 (Stanford University Press). 第1回 1800—The Scholar's Tragedy :Prelude in the Theater 第2回～第4回 The Mother's Mouth 第5回～第7回 Language Channels 第8回～第10回 The Toast [以上 2学期] 第11回 1900—Nietzsche :Incipit Tragoedia 第12回～第14回 The Great Lalulā 第15回～第17回 Rebus 第18回～第20回 Queen's Sacrifice [以上 3学期] 【授業外の予習復習方法】受講者には、授業では各自の担当箇所を翻訳したものを相互に報告し検討することが、さらに授業外では関連する文献[フリードリヒ・キッター『グラモフォン・フィルム・タイプライター』(日本語訳はちくま学芸文庫)、同『ドラキュラの遺言』(日本語訳は産業図書)ほか]を適宜参照しながら報告のための周到な準備を行うことが要求される。 【教材等】上記以外の関連する文献やテキストについては授業のなかで適宜指示する。</p>			
単位取得要件	文献についての翻訳／報告、それらの検討と討論の作業などを踏まえた総合評価		
備考			